

# 令和元（2019）年度 大阪大谷大学学生代表者会議

## ～ 学生との意見交換の内容及び大学側の回答 ～

【学生の受入れについて】			
	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
1	<p>アドミッションポリシー全体の印象としては、特に分かりにくいという点は無かった。ただ、各学科・各専攻の育成する人材像の表現が抽象的で、これを見て大学を決めようとしている受験生にとって、大阪大谷大学の取り組みが少し捉えにくいのではないかと感じた。例えば、各学科の取り組みやカリキュラムを簡略化したものや、それらを紹介しているURL等を記載することによって、改善できるのではないだろうか。私自身、大学を選ぶときにアドミッションポリシーに加え各学科の取り組みやカリキュラムを重視していたため、そのように改善されれば、大学選びに悩む受験生も大阪大谷大学に対して興味をもってもらえるのではないかと思った。</p> <p><a href="#">アドミッションポリシーはこちら&gt;&gt;</a></p>	<p>受験生にとって分かりやすい表現を用いたアドミッションポリシーにしていきたいと考えています。また、具体的に各学科でどのようなことが学べるかが分かるようにホームページを充実させていきます。</p>	入試広報室
2	<p>私が入学した2017年度以前入学生対象のアドミッションポリシーに比べ、2018年度以降入学生対象のアドミッションポリシーのほうがより具体的に書かれているので、本学への入学を考えている受験生にとってはわかりやすく、非常に参考になると感じた。</p>	<p>上記と同様の回答となりますが、受験生にとってわかりやすいアドミッションポリシーとなるように心がけていきます。</p>	入試広報室
【教育課程及び教授方法について】			
	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
3	<p>歴史文化学科のカリキュラムポリシーは、私が入学する2017年度以前のもは、教養課程を編成するための一般的な方針のみが示されているだけのものではあったのに対して、2018年度以降のものは方針だけでなく教育方法や評価方法などが具体的に示されており歴史文化学科ではどのような授業が受けられるのか理解しやすくなっている。また、カリキュラムポリシーの中の各項目に番号が付され整理されていたため、全体がすっきりと見やすくなった。「報恩感謝」について最初に述べられているのも本学の特色が出ていて良いと思った。</p> <p><a href="#">カリキュラムポリシーはこちら&gt;&gt;&gt;</a></p>	<p>2018年度以降のカリキュラムポリシーについては、従来からの評価方法等を明文化することで学生にとって分かりやすいポリシーになっていると思います。</p>	教務部 (文学部)
4	<p>1・2回生の授業では、先生による講義形式の授業が多かったが、進級するごとに専門的な知識を学ぶ授業に加え、グループディスカッションやグループワークをする機会が増えたと感じる。授業で得た知識を基に、グループで意見をまとめ、全体の前で発表する機会なども多くあり、そのための資料の作成やパワーポイントの活用なども、学ぶことができています。</p>	<p>アクティブ・ラーニングの良さを実感してもらっており、今後も、学生の知識を活用しながら、ディスカッションやグループワーク等をする授業を増やしていきます。</p>	教育学部
5	<p>授業内で外部講師を招いて学ぶものが非常に良いと思った。地域や社会の現場でしかわからないことなどを外部講師の方の言葉で聞いたり、実際の映像を見たりすることで、イメージしやすく、とてもためになったと思う。</p>	<p>大学での講義以外にも、地域や社会と連携を図り、外部講師による実体験に基づいた教育を行うことが大事であると考えています。人間社会学部としては、学会活動やキャリア関係の外部講師を招くことが多いので、今後は、学生からの意見も取り入れながら、学部全体で取り組んでいきたいと考えています。</p>	人間社会学部
6	<p>薬学部では、先生間のトラブルや分かりにくい資料を用いた授業もあるので、改善してほしい。</p>	<p>今後、学生の信頼を損ねるような授業については、改善するように努めていきます。</p>	薬学部

# 令和元（2019）年度 大阪大谷大学学生代表者会議

## ～ 学生との意見交換の内容及び大学側の回答 ～

【学修及び授業の支援について】			
	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
7	フレッシュマン・キャンプに参加することは、とても嫌だった。顔を合わせたばかりの人とすぐに旅行に行くというのは、緊張するし気が進まなかった。でも、先生の講演が聞けたり、先輩や先生に教えてもらいながら時間割を組むのはとても役に立った。オフィスアワーは活用したことはなく、分からないことや聞きたいことがあれば、授業後すぐに先生に質問をしている。	フレッシュマン・キャンプについては、今までも短期間で友達ができるため大学生活に馴染みやすくなるという利点がある反面、初対面の人と宿泊をともにすることで、精神的な負担がかかることがあるとの意見が寄せられていました。また、食事面（アレルギー等）の対応等、様々な問題を解決するため、来年度からは宿泊を伴わないフレッシュマン・ミーティングとすることが決定しています。なお、フレッシュマン・キャンプにおいて利点とされていた「友達作り」を目的とする企画・レクリエーション等については、新たに実施されるフレッシュマン・ミーティングにおいても継続して実施していきたいと考えています。また、フレッシュマン・ミーティングとは別に学科・学部を超えて、意見を聞いたり、学生同士のつながりを築けたりする場も提供したいと考えており、今後、文化会や体育会等の協力を得たいと考えています。	フレッシュマン・キャンプ会 フマキ委
8	テストの1週間前や前日に先生が不在の場合、質問ができず、とても困る。特に専門科目については、他の先生では対応してもらえない。なお、授業後についても、次の授業の準備（実験等）があるため、質問の時間を取ることができない。また、薬学部のテスト中に他学部の学生が廊下で騒ぐと集中できず、とても迷惑なので、先生から注意してほしい。	教員によっては、公平性を保つためにテスト前には質問を受け付けない場合も考えられますが、できるだけ質問には対応しますので、オフィスアワーを活用してください。なお、薬学部のテスト期間中の対応として、廊下に、テスト中である旨を知らせる立て看板を設置していますが、今後は別の対策を検討する等、集中してテストに臨める環境にしていきます。	薬学部
【単位認定、卒業・修了認定等について】			
	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
9	各学部・学科の先生が、どうすれば単位が授与されるのかをシラバスに具体的に示してくれているので、わかりやすいものになっていると思う。また、評価基準等についても、具体的な内容でわかりやすく、適切に設定されていると思う。今後、シラバスの重要性が学生にも伝わるように更なる先生からの学生へ声掛けが必要だと感じる。	授業が進むに従って、学生がシラバスを見る機会は減っていくと思われます。シラバスには毎回の授業でどのような力がつけばよいのか到達目標が記載されていますので、学修活動で自分にどれだけの力がついているのかを日々確認してください。	教務部
10	シラバスを見ている学生が少ないと思う。実際に1回目の授業で、先生から「シラバスを事前に見た学生がどの程度いるか」の確認があったが、受講者の1割程度であった。フレッシュマン・キャンプのときに先輩から授業の概要や特徴を教えてもらえるが、先輩の主観でしかないので、シラバスをもっと見た方が良く思う。	授業に関して、先輩から教えてもらった話は参考にはなりますが、主観であり、全てではありません。結局は、学生自身が責任を持って履修することになりますので、シラバスをきちんと確認することを、今後も学生に周知していきます。	教務部

# 令和元（2019）年度 大阪大谷大学学生代表者会議

## ～ 学生との意見交換の内容及び大学側の回答 ～

【キャリアガイダンスについて】			
	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
11	あまり利用したことはないが、一度、企業研究会に参加した。初めてこのような体験をしたので緊張したが、質問をするように就職課（現 キャリア支援課）から促してもらったりと、とても丁寧に対応をしてもらった。また、企業の方の貴重な話を聞くことができ、今後の就職活動の参考となった。	学生は、知名度の低い企業にはエントリーしない傾向にありますが、企業研究をすることで、学生が持っている企業のイメージと本来の企業の姿とのギャップを埋めることができます。今後は単に就職できれば良いのではなく、「本意な就職」、「辞めない就職」を目指し、積極的にキャリアガイダンス等を活用してください。	キャリアセンター
12	3回生になり、進路についてより深く考えていく中で、キャリア教育科目やインターンシップの参加の必要性を感じるようになり、教職支援課を利用する機会が増えた。また、キャリア教育科目の教職基礎演習などは採用試験に直結する勉強ができるので、とても役に立っている。ただ、1・2回生の頃から教職に関する勉強を始めていたらよかったと思うので、もっと、大学側からもキャリア教育科目の受講を勧めてほしい。	早い段階からキャリア教育について学生に知ってもらうために、年度初めのオリエンテーション等を活用し、紹介するようにしていきます。	キャリアセンター
		教育学部は履修科目が多いが、できるだけキャリア教育科目を受講しやすい時間割にすることで、教員という仕事だけではなく、自分の良さや働くとはどういうことなのかということも学んでほしいと考えています。それを1・2回生から積み重ねて身に付けることで、3回生から本格的に始まる教員採用試験へ向けての基礎となるような科目設定にしていきます。	キャリアセンター
13	キャリアガイダンスでは、知名度が低い企業もあり、あまり興味を持つことができなかつたときがある。学生にとって魅力的な企業の話を知ることができるガイダンスを多く開催してほしい。	企業の方から直接話を聞くことができる機会を設けても、その企業からどのようなことを学んでほしいのか、その理由を学生に事前に説明することが不十分であったため、学生は企業の知名度だけで判断してしまい、キャリアガイダンスに参加しないということが分かりました。学部・学科によっても、話を聞いてみたい企業の要望は異なると考えられますので、今後は、学生が希望する内容も汲み取って、企画に反映させていきます。	キャリアセンター

# 令和元（2019）年度 大阪大谷大学学生代表者会議

## ～ 学生との意見交換の内容及び大学側の回答 ～

【学生サービスについて】			
	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
14	定期的に奨学金等の説明会などを大学側が開催してくれている。内容も理解しやすく適切であると感じる。ただ、放送での呼びかけについては、もっと聞こえやすくしてほしい。また、硬式野球部に所属しているが、グラウンドが大学から少し離れており、現状では、部員の移動手段に少し困っている。	放送での呼びかけは、場所によっては、周囲の騒音等の影響で、聞こえにくいことがあります。また、放送は、念のために行っているものであり、説明会の案内等、大学からの連絡事項については、掲示でお知らせしていますので、必ず掲示板を確認するようにしてください。 また、日頃の移動手段だけではなく、対外試合でのバス移動等、課外活動においての課題が多いことは、認識していますが、課外活動を実施する環境については、今年度よりキャンパス整備が予定されており、今回のように学生からの意見を聞くことで、課外活動を充実していくことに繋げることができればと考えています。	学 生 部
15	大学で体調を崩したことがあったが、学内に保健室があるということを認識しておらず、また、場所も知らなかった。高校までは、保健室がとても利用しやすかったので、大学の保健室も、もっと分かりやすく、気軽に足を運べる場所になったらいいと思う。	現在も、入学時に一部の学部では、キャンパス内の主要な場所を案内しています。今後は全学部において、学内施設の案内を徹底し、保健室や学生相談室についても周知していきます。	各 学 部
		学生相談室は、部屋の特性上、学生に安心して利用してもらえるように、あえて他の学生の目につきにくいところに設置しています。他方で場所が分かりにくく利用しづらいということも考えられますが、今後は、場所については周知徹底するとともに、個人相談以外にもランチアワーやティーアワーを開催し、学生にとって、足を運びやすい開かれた場所となるようにしていきます。	学 生 相 談 室
16	薬学部では、6限目に実習がある場合、20時頃まで片付けに時間がかかることがある。また、朝から夜遅くまでの授業や薬品を使用する実習もあることから、体調を崩すこともあり保健室を21時頃まで開室してほしい。もしくは、保健室とまではいかないが、一時的に休憩できる場所があれば、友人が体調を崩したときにも、付き添う必要がなく、安心して任せることができる。	休憩できる場所を設置する等、大学としてどのような対応をしているのか、今後、検討していきます。	事 務 局

# 令和元（2019）年度 大阪大谷大学学生代表者会議

## ～ 学生との意見交換の内容及び大学側の回答 ～

【教育環境の整備について】			
	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
17	図書館は9時開館であるが、授業が始まる前に図書館へよって新聞を読んだり、授業で使う本を借りて、情報を集めたりしたいので、8時30分開館に変えてほしい。また、閉館時間も現在の19時30分から21時くらいまで延ばしてほしい。時間を延長することで、利用者や本の貸出の機会も増加するのではないだろうか。	本学の図書館は、現在、平日は9時から19時30分まで開館しています。主な大学においては（24時間開館している大学を除く）、9時より早く開館している大学はほとんどなく、閉館時間についても、19時30分以降開館している大学はあるものの、本学の場合、5限目の終了時間（18時05分）を考えると、19時30分まで開館していることから、本学の図書館は、適正な開館時間であると考えています。	図書館
18	学内のトイレに洋式が少ない。また、エレベーターが設置されている建物が少ない。特別支援教育に力を入れている大学であると認識しているが、バリアフリー化が進んでいないことに疑問を持っている。	昭和40年頃に建てられた建物もあり、段差も多い。エレベーターの設置等、設備の改修が行き届かないところもあるため、支援を必要とする学生については、その学生の時間割をもとに、履修科目の授業を車椅子で移動しやすい教室に配置する等、ハード面で補えない点をできるだけソフト面で対応をしています。なお、今年度から始まるキャンパス整備では、バリアフリーに配慮した計画を進めていきます。	事務局
19	第一体育館のロッカーの鍵が壊れているため、私物、貴重品など無防備になっているのをよく見かける。	キャンパス整備の際に体育館も建替えるので、要望に応えられるようにしていきます。	事務局
20	先生からは授業で配るプリントは各学科共同研究室のコピー機を使うように勧められるが、教員許可がないと使えないため、コピーするまでに時間がかかる。そのため、特に急いでコピーしないといけないときには共同研究室のコピー機は使いづらい。また、学内に設置されている他のコピー機を使おうとしても、近くに無かったり、紙詰まりや紙が無いことが多い。各学科共同研究室のコピー機の使用環境の改善、もしくは、学内にコピー機を増やしてほしい。	学生委員の意見のとおり、授業や学会のために印刷を要するときは、各学科共同研究室の事務係の指示に従い、学生用印刷機を使用することが可能です。教員許可の有無等、コピー機を利用する際の手続きについては、各学科共同研究室に確認し、コピー機を利用しやすい環境にしていきたいと考えます。	教務部 (各学科共同研究室)
		コピー機の増加については、消防法の問題等もあるため、新たに設置するのは難しく、現在設置されているコピー機を活用してください。	事務局

# 令和元（2019）年度 大阪大谷大学学生代表者会議

## ～ 学生との意見交換の内容及び大学側の回答 ～

【その他】			
	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
21	フレッシュマン・ミーティングの質疑の際に、文化会・体育会等の協力を得たいとの話が出ていた。文化会会長としては、具体的にどのようなことに協力することになるのか教えてほしい。	フレッシュマン・ミーティングとは別に学科・学部を超えて、学生同士のつながりを築ける場を提供したいと考えています。その際には、文化会・体育会等の協力を仰ぎながら、学科・学部を横断した取組を実行するために働きかけていきます。	学 長 (フレッシュマン キャンプ委員会)
22	薬学部は専門必修科目が多いため、3回生になると共通教育科目の選択科目がほとんど履修できない。上回生になっても、薬学部の専門教育科目以外に、共通教育科目「心理学」や「体育（講義も含む）」等も受講したい。	薬学部のカリキュラムは、薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づき作成され、薬剤師国家試験に合格するために必要な科目が設定されています。薬学部の学生にとって、薬剤師国家試験に臨める力を卒業時まで身に付けておくことが一番重要ですが、薬学以外の分野についても学びたいという意欲を持ち続けることは、素晴らしいことです。なお、本学では、薬学部授業科目履修規程（文学部・教育学部・人間社会学部授業科目履修規程）により、既に単位を修得した授業科目については、再履修することはできません。	教 務 部